

2011年度Smips特許戦略工学分科会報告

2012年3月10日 報告：片岡

発足：2003年10月11日 MLメンバー数は133名（2011年3月12日時点）

特許戦略工学分科会の目的は、特許戦略工学を研究し、特許戦略論の普及および特許戦略システムの構築の引き金になること。



オーガナイザー： 片岡 敏光
赤間 淳一
安彦 元
綾木 健一郎
久野敦司（京都在住）

http://groups.yahoo.co.jp/group/Patent_Strategy_Engineering/

http://www.patentisland.com/Patent_Strategy_Engineering/Result.html

特許戦略工学は、特許戦略論と特許戦略システムから構成

特許戦略工学

特許戦略論

知財教育
(創造・経
営・活用
の研究)

特許明細書
(格成分数によ
る技術的範囲
の広狭の研究)

特許戦略システム

PCML(請求項記述言語)

PCMLツール

格成分数自動抽出

PCML (請求項記述言語とは):

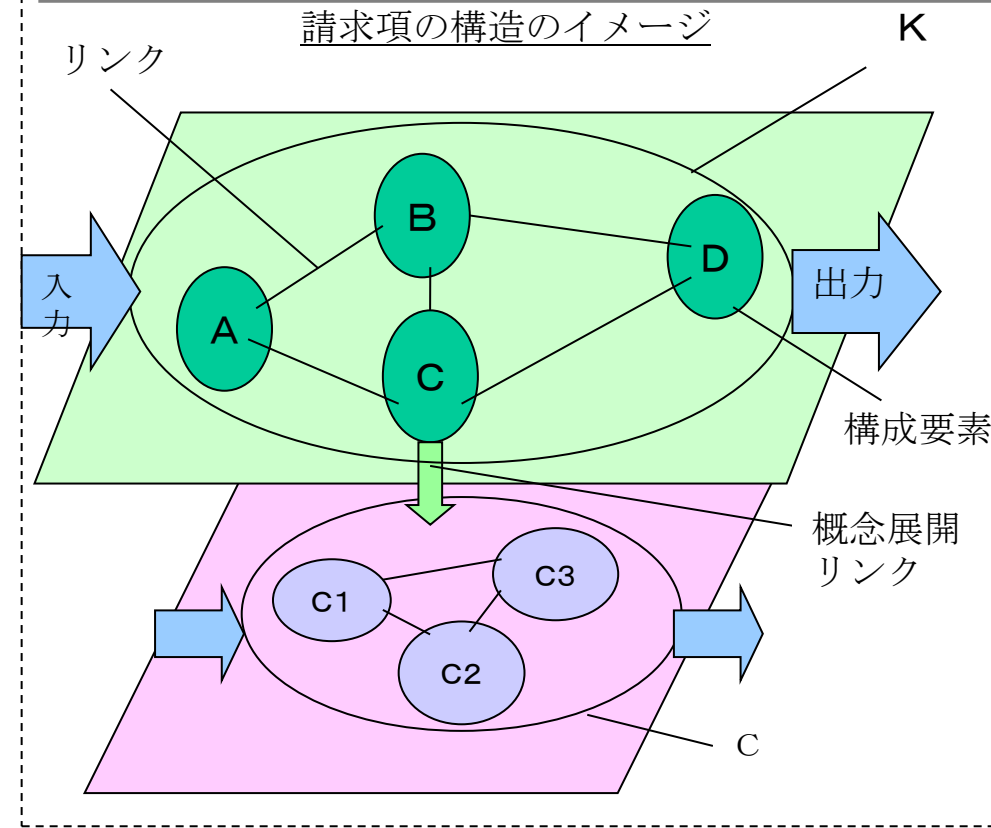
人間にとってもコンピュータにとっても明瞭で理解しやすい構造を持つように請求項を記述するために用いる言語

英語表記

PCML: Patent Claim Markup Language

インターネットの世界でWeb上の様々なコンテンツ(文字、図、絵、画像、音)を居ながらにして見れるのは、陰に、HTML、XMLというタグ付けられた記述言語が存在しているから。同様に、「請求項」をタグ付けた記述言語PCMLで記述すれば特許法等を知らない素人でも、発明や権利範囲を直感的に理解できるようにコンピューターが支援する。

特許請求の範囲に記載される請求項は、構成要素と、構成要素を結合するリンクからなるグラフ構造である。これをPCMLで記述できる。



発明を把握するためには、構成要素と他の構成要素との接続に使用されるリンクが、それぞれの構成要素の性質に適合し、外部からの入力と請求項の構成要素およびリンクの作用で出力される過程が、発明としての特徴事項を表すことになり、これらの構造は、タグ付けられた請求項記述言語で表現可能となり、その請求項は、人間またはコンピュータに、発明の構成と作用・効果の関係が理解可能に記述された請求項であると言える。

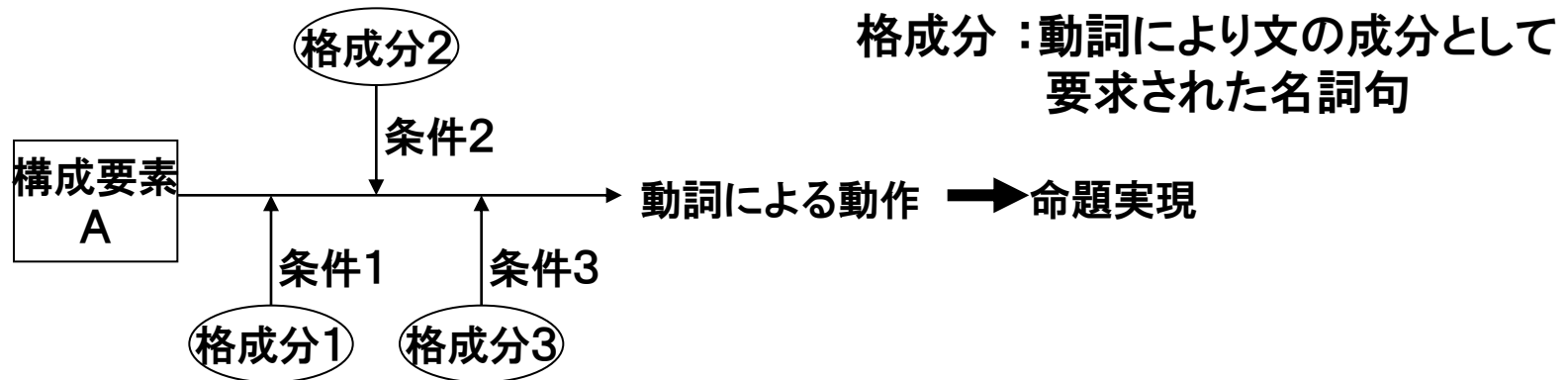
階層構造

構成要素やリンクの意味を定義した概念辞書

請求項を理解する主体である人間またはコンピュータに用意する。

定量的指標としての格成分数

特許請求の範囲の記載において各構成要素につきどれだけ限定がかけられているかを数値化したもの



■ LD(格成分数)の抽出例

「ユーザからの要求に応じて 駆動信号を 生成する 信号生成手段と～」

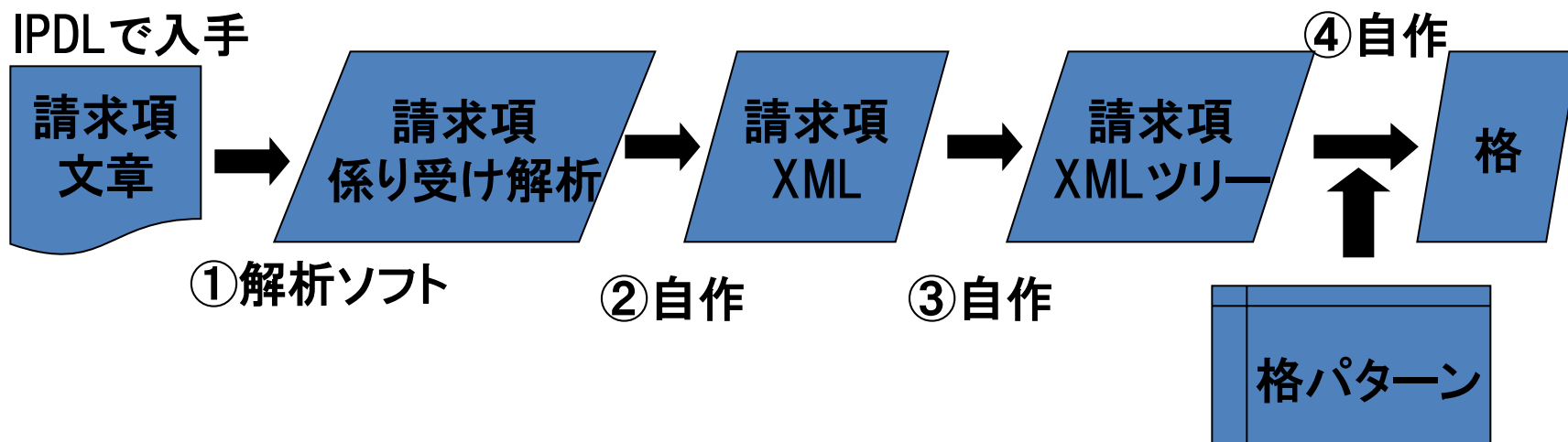
1 格成分 1 格成分 動詞

「生成する」という動詞に対しては全部で2格成分数

・動詞による命題を実現するための動作開始条件として、“ユーザからの要求に応じて”いなければならない、さらにその対象として“駆動信号”を生成しなければならないため、これら2つが動詞による命題実現のため条件数となっている。このため格成分数は、2となる。

請求項(クレーム)の格成分の自動抽出方法の研究

- ①請求項(改行有)を、係り受け解析ソフトで解析。
- ②係り受け解析結果を、XMLに変換。
- ③このXMLの係り受け構造をXMLツリーで表現。
- ④XMLツリーと格パターンとを照合して格成分を抽出。



2011年度活動計画

- ・格成分の自動抽出ツールの開発、検証
- ・PCMLと格成分数との融合
- ・技術進化・イノベーションの検討
- ・特許戦略に係る講演

月 日	予 定
4月16日(土)	講演「御社の特許戦略がダメな理由」 長谷川氏(全体セッション)
5月14日(土)	講演「女子大生マイの特許ファイル」稲森氏(全体セッション)
6月11日(土)	講演「たった一人のビジネスモデル」川北氏(全体セッション)
7月9日(土)	知財学会発表報告
10月8日(土)	講演「特許明細書のチェック法」橘氏
11月12日(土)	外部講師を招いて講演
12月10日(土)	研究成果中間報告
1月14日(土)	外部講師を招いて講演
2月18日(土)	研究成果最終報告
3月10日(土)	2011年度活動報告、次年度計画

月 日	実績・内容
4月16日(土)	講演「御社の特許戦略がダメな理由」 長谷川氏(全体セッション) 「震災後の復興に寄与する知財戦略とフリーディスカッション」長谷川氏
5月14日(土)	講演「女子大生マイの特許ファイル」稲森氏(全体セッション) 「特許取得のための事例を使用した発想ワーク」稲森氏
6月11日(土)	講演「たった一人のビジネスモデル」川北氏(全体セッション) 「ショルダーベルト特許取得プロセスとビジネス展開」川北氏
7月9日(土)	講演「特許的思考によるアイデア発想法」橘氏(全体セッション) 「特許明細書のチェック法」橘氏
10月8日(土)	講演「米国特許法改正対応策」粕川氏(全体セッション) 「発明創出活動を支えるプロジェクトマネジメント」泉通博氏
11月12日(土)	「ソフトウェア特許取得の勘所」泉通博氏、ワーク
12月10日(土)	「ソフトウェア特許の開発戦略」綾木氏
1月14日(土)	発表「ヤマハVOCALOIDシリーズ」におけるCGMと著作権 漆原グループ、関氏、綾木氏
3月10日(土)	2011年度活動報告、次年度計画フリーディスカッション

徒然知財時々日記

知財のことや技術経営のことを中心に時々徒然に書きます

● 携帯URL



携帯にURLを送る

● 最近の記事

MDCの終末に見る

● 〇の〇の特許事務所と
〇の特許事務所業界を

● 長谷川曉司 | 御社
● で

コーンデンション直前に記
なく記事が書かれてしまっ

本日は、一部の知財関係者
々な理由」をようやく読み終
者には、東大知的資産経営

御社の 特許戦略が ダメな理由

「著作権保護コンテンツ」

Why Your Company's Patent
Strategy is Unsuccessful

9割の日本企業が 特許を取っても
利益に結びつけていない

元・三菱化学株式会社理事
長谷川 曉司

Koshi Hasegawa

★ 特許と事業を結
研究部門、事業
「三位一体の特許

中経出版

御社の特許戦略がダメな理由

SMIPS 2011. 4. 16

長谷川知財戦略コンサルティング

- 弁理士
- 長谷川 曉司





ホーム > 取材しました！女子大生マイの特許ファイル

取材しました！女子大生マイの特許ファイル



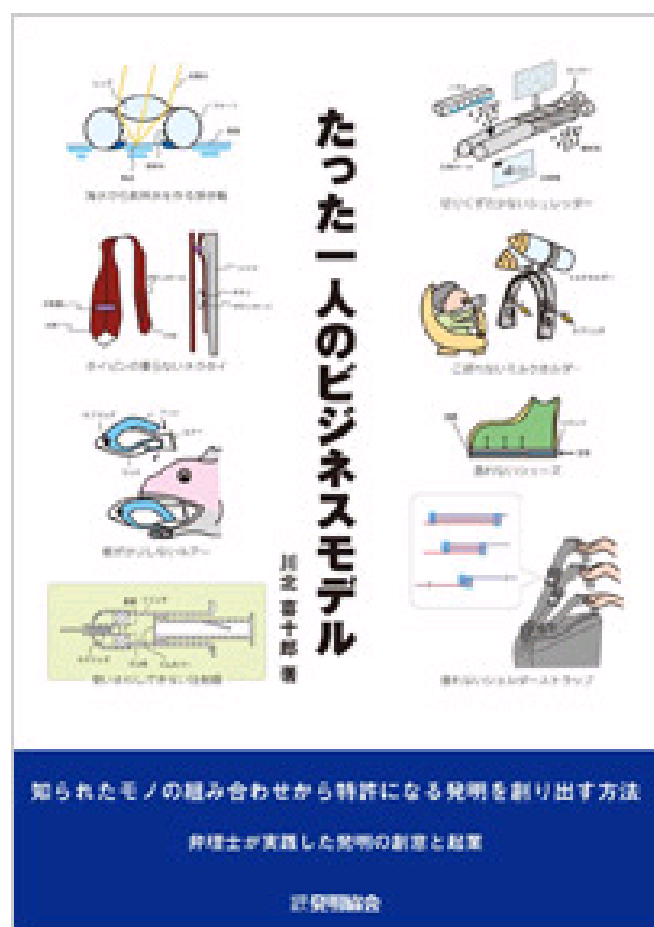
日本弁理士会・関東支部の中に、インターネットでものすごく検索されている人がいる。

『稲森 謙太郎※』

彼は、最近、特許の本を書いた弁理士らしい。それも、一風変わった特許の本を書いた弁理士だというのである。どのような本なのかと興味を持ち、書店に行ってみると、法律書のコーナーに見たこともない光景が広がっていた。

『女子大生マイの特許ファイル』…この法律書コーナーにはおおよそ似つかわしくないと思われる可愛いマイちゃんの写真を見たときには多少の戸惑いもあったが、手にとって中を見てみると、内容は実にしっかりとした、れっきとした法律書であった。

そこで、今回は、この『女子大生マイの特許ファイル』の著者でもあり、日本弁理士会・関東支部内での検索ランキングにもランクインしていた稲森謙太郎先生に、お話を伺った。



たった一人のビジネスモデル

－ 知られたモノの組み合わせから特許になる発明を作り出す方法 －

川北 喜十郎 著
発明協会出版

「発明手法」、「アイデアの出し方」などに関する書籍は、これまで数多く発行されていますが、本書では、単に発明を生み出す手法についてではなく、特許になる発明をどのように生み出すか、ビジネスに貢献する発明をどういう観点で創ればよいかにポイントを置いて説明しています。発明サンプルの写真や図表を多く取り入れ、ビジュアルで分かりやすい内容になっています。知的財産関係者のみならず、学生、技術者、これから起業することを考えている方など、発明に興味がある方には是非読んでいただきたい一冊です。

茨城高等工業専門学校様、小倉工業高校様、岡谷工業高校様、島原農業高校様などに、知財授業テキストまたは授業資料としてご利用頂いています。



特許的思考によるアイデア発想法

～企業競争力を高める価値ある特許を取得するため～

講師 弁理士 橘 和之

一燈国際特許事務所

tachibana@itto-pat.jp



TBMの趣味三昧

音楽(CD、ライブ)、格闘技、読書、そして弓道ネタなどなど1回1テーマについて書き綴っていきます。

TBM さん



nice! 10766

記事 2406

テーマ本 (14位)

[プロフィール](#)

カレンダー

<< 2012年03月 >>

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24

「ANA 機内放送8月」 | 先週の弓道

[ブログトップ](#)

今日の本「研究開発プロフェッショナルのための発明バイブル」

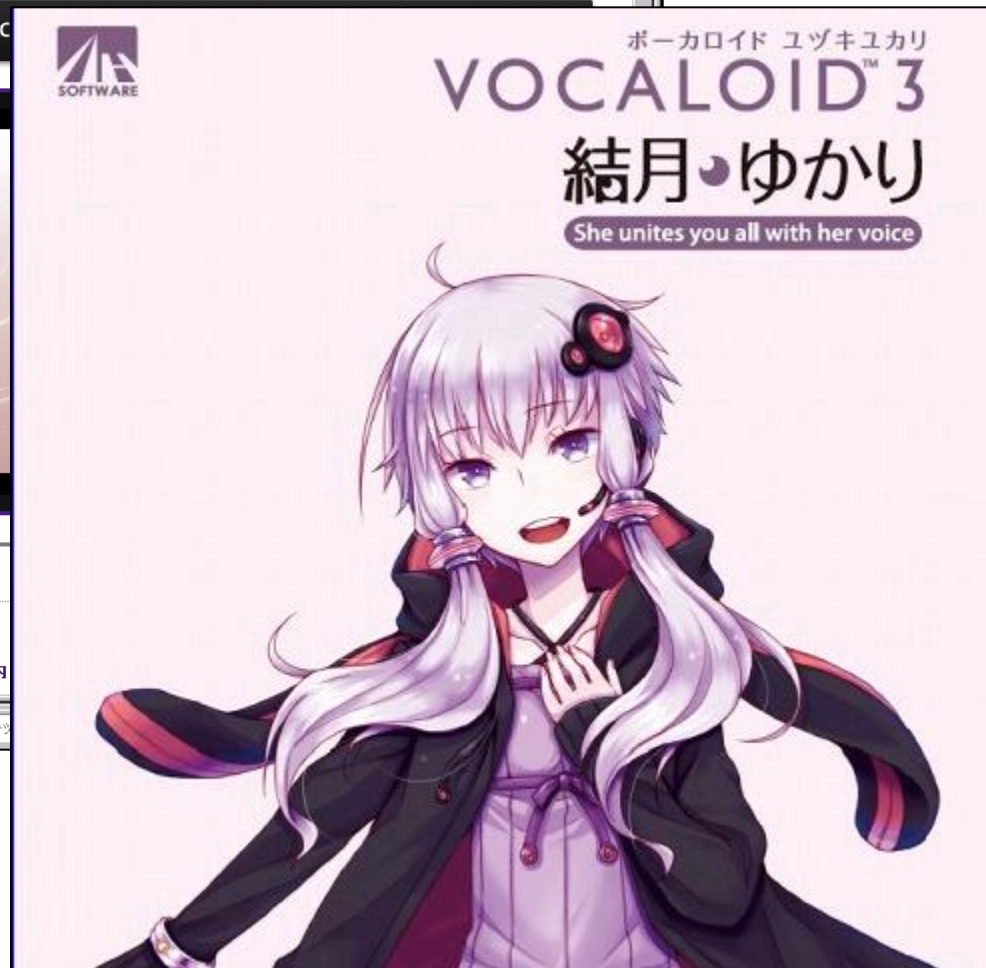
今日の本「研究開発プロフェッショナルのための発明バイブル」(創光国際特許事務所:10年)

盆休み、ちょっと仕事に関わる本を読みました。
仰々しいタイトルですが、特許に関する解説書となります。

著者は泉通博氏と吉田武弘氏の共著。泉氏はキャノンを経営し、吉田氏はキャノン所属。

本書、2部構成。まずは著者2人による対談にてスタート。その後、特許制度について、発明から登録後までを解説。







研究成果(外部発表 その1)

● 学会発表

- 2011年3月19日 日本MOT学会 「特許権侵害訴訟における敗訴要因の格成分数を用いた定量的検証」安彦
- 2011年6月25日 日本知財学会第9回年次学術発表会
「近年における特許権侵害訴訟判決と技術的範囲の広さとの関係について～格成分数による定量分析～」安彦
「格成分数により定量化した特許発明の技術的範囲の広さにおける年度別推移 ～LED照明特許の事例研究～」
安彦ほか
「格成分数によるビジネス関連発明の考察」片岡ほか
「格成分から見た特許請求項の概念モデリング」赤間ほか
「製品開発における技術差別化と顧客ニーズ対応力との関係についての定量的考察」和泉ほか
「特許発明の技術的範囲の広さと無効審判の審決との関係の考察」綾木ほか
- 2011年11月26日 経営行動科学学会第14回年次大会
「ベイジアンネットワークによる特許権利化業務のマネジメント手法について」安彦

研究成果(外部発表 その2)

●今年度中の学会発表予定

2012年3月17日 日本MOT学会 2011年度年次学術発表会

「特許一実用新案の法域間における取得可能な権利範囲の広さに関する一考察」

安彦、綾木、片岡

「特許請求の範囲の限定度合に対する進歩性の関係について」

綾木、安彦、片岡

● 査読付論文

「特許権侵害訴訟におけるリターン(勝訴)とリスク(敗訴)の技術的範囲の広さによる定量的検証」日本知財学会誌 Vol.8 No.1 pp88-99 (2011) 安彦

● 解説論文

「格成分数による特許権侵害訴訟の定量分析」パテント Vol.65, No.2, pp55-63
安彦

2012年度活動計画

- ・格成分数の研究(データ分析、特許戦略)検証
- ・技術進化・イノベーションの検討
(VOCALOID、スマート技術、TRIZ関連)
- ・特許戦略に関係する著作者の講演